

講義名	中小企業経営論			授業形態	
担当教員	長坂 泰之	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

本科目では、中小企業経営に関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身に付けることとで、社会に貢献できる学生を育てます。
日本の企業の約99.7%が中小企業であり、また雇用の約70%が中小企業とされています。日本における中小企業の役割は非常に重要であり、特に地域において重要な役割を果たす中小企業が、実際にどのような経営・事業活動を行っているのかについて、体系的に学ぶことを目的としています。
本科目では、中小企業の経営に関して、主として中小商業の社会における役割、経営戦略、支援策について学ぶとともに、事例から中小商業等の実態を学ぶことなどによって、中小企業経営に対する理解を深めます。
なお、本講義は、中小企業経営（主に中小商業）に興味がある学生に向けた講義です。
最後に、オンデマンドで履修する学生に関しては、登学を求める場合があります。

到達目標

- (1) 履修した学生が、中小企業の経営に関して主として中小商業の社会での役割及びその変化について必要な知識を身に付けることができる。
- (2) 履修した学生が、中小企業の経営に関して主として中小商業の経営に必要な知識を身に付けることができる。
- (3) 履修した学生が、中小企業の経営に関して主として中小商業に対する様々な支援に関する知識を身に付けることができる。
- (4) 以上から、履修した学生が、中小企業経営全般について理解することにより、中小企業経営に寄与できるようになる。

提出課題

毎回のレポート
レスポンスを使用して、毎回の授業で当該授業の理解度チェックを兼ねたレポートが出来ます。
また、授業中にResponなどを使用して、教室内の意見を集約・発表することなどによって、様々な考え・意見が存在することを理解するとともに、自らの考えや理解を深めることを目指します。
中間まとめテスト（レポート方式）を行います。
期末まとめテスト（レポート方式）を行います。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

必要に応じて、講義連絡、次回以降の講義、メール等により講評、解説を行います。

評価の基準

毎回のレポート・・・60%（最低9回以上の提出を必須）
レポート以外に授業中にResponなどを使用して、教室内の意見を集約・発表する内容、参加意欲なども加味します。
中間まとめテスト（レポート方式）・・・20%（必須）
期末まとめテスト（レポート方式）・・・20%（必須）
毎回のレポートで、定性的な記述において、全く同様の内容、類似した内容、ネット等からのコピペについては、関係した全ての学生のレポート評価を0評価とします。

履修にあたっての注意・助言他

1. 講義連絡について
基本的にRYUKAポータルでの「講義連絡」を通じてによって、講義の連絡、テキストの配布及びレポートの内容・期限等を通知します（対面の履修生には講義資料を配布します）。
2. レポートなどの期限について
レポート、レスポンスの提出期限は厳守です。また、「対面」「オンデマンド」のレスポンスの提出ミスは「未提出」扱いになるので十分気を付けてください。
3. 本科目は主に中小商業について学びます。専ら中小製造業について学びたい学生向けの科目ではありませんので注意してください。

教科書

.使用しない。

参考図書

.1からの流通論第2版。 石原武政・竹村正明・編井謙一（編著） 碩学舎 2640 9784502283611

その他

資料
RYUKAポータルの講義連絡からPDFで配信します。
参考文献
渡辺幸男他著、『21世紀中小企業論』第3版、有斐閣アルマ、2013年
楳田浩史他著、『中小企業・ベンチャー企業論』新版、有斐閣コンバクト、2014年

授業計画

1. 中小企業とは、中小企業経営とは？
2. 中小企業経営と起業家精神
3. 中小製造業の経営とその特徴
4. 中小商業の経営とその特徴
5. 中小商業の経営とその特徴
6. 中小企業経営に対する支援（国・県・市の支援策）
7. 中小企業経営に対する支援（中小企業診断士の役割）
8. 前半の振り返り（中間まとめテスト）
9. 中小企業の経営戦略（事例から中小商業等の実態を学ぶ）
10. 中小企業の経営戦略（事例から中小商業等の実態を学ぶ）
11. 中小企業の経営戦略（事例から中小商業等の実態を学ぶ）
12. 中小企業の経営戦略（事例から中小商業等の実態を学ぶ）
13. 経営計画と売上アッププラン
14. 中小企業を経営する（起業と創業）、まとめ
15. 総括「私たちは中小企業経営論から何を学んだのか」（期末まとめテスト）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
事前にRYUKAポータルを通じて配布された資料の内容等について、参考文献やその他の書籍、インターネット等で調べてみよう。（1時間程度）
復習
授業で重要と思われたところを中心に、資料と参考文献等を読み直し理解を深め、レポートを作成しよう。（1時間程度）
中間及び期末のまとめレポート作成に向けて必要な学習を行おう（1時間程度）
授業での学びから、将来に向けて必要と思われる知識の習得や、必要に応じて現場で活動をしてみよう（1時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

中小企業経営に関して自ら考え理解することができる。また、中小商業経営に関して、変わりゆく経営環境の動きに強い関心を持ち、企業組織の中で具体的な改善や解決の提案ができる。併せて、商業の基礎知識を身に付け、経営に関する問題探索と課題提案ができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

Responなどを使用して、教室内の意見を集約・発表することなどによって、様々な考え・意見が存在することを理解するとともに、自らの考えや理解を深めることを目指します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
国の政策実施期間である独立行政法人中小企業基盤整備機構に3年以上在籍。中小企業の融合化、人材育成（中小企業診断士養成、中小企業経営後継者育成等）、インキュベーション運営、流通団地、工業団地、中心市街地、商店街、共同店舗、中小小売業の経営診断の経験あり。流通の現場の実態を伝えます。経済産業省登録中小企業診断士。

備考